

○ロボット産業振興施策の目指す姿と方針

ロボット産業拠点形成に向けた**ロボット開発・生産力の強化（作る）**と、
本県産業全体を持続可能なものとし、併せて社会課題を解決していくための**ロボット導入の拡大（使う）**の**2つの視点**で取り組む。

全国一のロボット関連企業等の集積があり、先進的な活用事例が
絶えず生まれる、**ロボットを「作り」「使う」世界的な先進地を目指す。**

○2024年度の主な取組と成果

赤枠は2025年度見直し・拡充部分

	総合的・横断的な取組	製造・物流分野	医療・介護分野	業務用サービスロボット分野	空モビリティ分野
新製品の開発・ 早期実用化支援 「作る」	新あいち創造研究開発補助金 研究開発・実証実験への補助制度 ・ロボット分野：採択10件（全採択61件） 補助期間を最大2年に延長 デジタル・AI・カーボンニュートラルに資する 研究開発やスタートアップへの支援を拡充	知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅣ期 産学行政連携の研究開発プロジェクト <全27テーマ中 ロボット関連：5テーマ> ・技術の確立6ターゲット ・産業用ロボット向けワイヤレス電力伝送や農場に おける収穫支援に関する技術を確立 V期プロジェクトスタート（～28年度） 海外及び県外大学等の参画、期間・研究費 の異なる挑戦種・実用枠の設置、世界的な橋 渡し支援機関による技術的調査等の支援	あいちサービスロボット 実用化支援センターの運営 相談対応や介護施設とのマッチング支援 ・相談件数：100件 施設見学者数 ・見学：17機関、93名		ドローン実証実験場の提供 名古屋港南5区等を実験場として提供 ・利用実績：11社・89回
	ロボット未活用領域導入検証補助金 ロボット導入に先立つ事業化可能性調査や技術検証 等を支援 ・採択件数：8件 採択額：計2,000万円 成果例： 博物館における案内ロボットの導入検証では、運用 面の評価により機器選定が終了。25年度以降の導 入を検討。	産業用ロボット活用相談窓口 企業・支援機関からのロボット導入に関す る相談対応、Sierとのマッチング ・相談件数：46件 支援例： 加工機への着脱の自動化相談に対し、 現場訪問の上、相談企業に見合ったロ ボットメーカー・Sierを紹介。	介護・リハビリ支援ロボットの 活用促進 開発側・利用者側に対応する窓口を設置 開発ニーズと利用ニーズのマッチング支援 ・相談対応：27件 ・マッチング：11件 専門家を含めた支援による導入・活用に に向けた課題解決支援 ・支援実績：1件 〔介護施設が見守りロボットを試行導入し 効果を体験。今後、導入を検討。〕 ニーズ発掘調査 〔入浴支援をテーマに介護施設の課題抽出〕 ニーズ調査結果を公開し 新製品開発を促進	自動配送ロボットを用いた ソリューションモデルの創出 先進的な配送モデルの実証実験を名古 屋市栄地区で3週間実施 〔改正道交法に基づく「届出」により実施、 遠隔監視により運行（いずれも県内初）〕 事業化を見据えた数か月間の長期実証	供給力の強化に向けた取組 サプライチェーン構築に向けた調査 ・有識者、自動車・航空機関連企業 へのヒアリング等を実施 共同研究プログラムの実施 新規 エアロマート名古屋2025と連携し 「ドローンサミット」を開催
活用モデルの創出と事業化 「使う」	World Robot Summit 2025の開催準備 開催記念シンポジウムを開催 プレイベントを高校生ロボットSIリーグと同時開催 県主催サイドイベントの実施計画策定 12月開催。国内外チームが競う競技会等に加え、最先端 ロボットが集まる展示・体験等の県主催イベントを併催 新規 ロボカップジュニアジャパンオープンの開催 （2025/3/29,30 開催予定） 廃止	産業用ロボット導入支援研修会 導入検討の考え方の講習や見学会 （新たに商工会議所と共催） ・全8回開催 受講者145名 高校生ロボットシステム インテグレーション競技会の開催 ・参加校16校（うち県外7校） 〔過去参加校から80名以上がロボット関 係企業へ就職。年々、参加校が増加〕 全国競技会化を視野に開催体制を見直し	大阪・関西万博「ロボットエクスペ リエンス」への参加準備 県内ロボットメーカー等6者と実証内容を 調整し、参加が決定 万博会場で未来社会の姿を示す 実証プロジェクト外実施（8/18～24） 新規	需要の創出に向けた取組 ① 物流ローンチモデル 社会実装を目指した実証実験 ・本土離島間の多頻度配送の検証 ・河川を航路とした複数目的地配送 ② 人流ローンチモデル 空飛ぶクルマ遊覧飛行の適地調査 ③ 災害対応ローンチモデル ・災害時のドローン利活用に向けた体 制の構築を検討 ・平時におけるデジタルマップの活用検 討。 実装に向けた調査・実証	
	「作り」「使う」を担う ロボット専門人材 の育成 World Robot Summit 2025の開催準備 開催記念シンポジウムを開催 プレイベントを高校生ロボットSIリーグと同時開催 県主催サイドイベントの実施計画策定 12月開催。国内外チームが競う競技会等に加え、最先端 ロボットが集まる展示・体験等の県主催イベントを併催 新規 ロボカップジュニアジャパンオープンの開催 （2025/3/29,30 開催予定） 廃止	オープンセッションの定期開催 会員交流・情報提供の機会の創出 ・全6回開催 〔参加者数：製造物流分野 70名、空モビリティ分野 125名、医療・介護分野 85名、業務用サービスロボット分野 88名〕 ショートプレゼンテーション：12社実施、ポスターセッション：12社参加、実機・デモ展示：4社・4機展示 プロジェクトチーム活動支援 新商品の実用化や活用モデルの創出を目指す協議会会員の活動を支援 ・支援テーマ数：2テーマ 〔潜在顧客・ニーズの把握のためのユーザーヒアリング等を支援。外販候補の開拓や新製品の要求仕様書の策定まで進む。〕	ドローンエンジニア人材創出に向 けた体制整備 知識・技術を体系化したテキスト・カリキュラ ムの作成及び養成機関の探索 試行運用、上級者向けテキスト作成		
担い手を繋ぐ プラットフォーム の形成	あいちロボット産業クラスター推進協議会の運営 総会、メールマガジンによる情報発信 会員数：652社・団体 今年度新規加入：59社・団体 ロボット導入地域連携ネットワーク（経産省）へ参画				

○意見交換いただきたい論点

- ・ ロボットの活用が進まない分野・用途が未だ存在。使いやすいロボットの開発はもとより、導入の要であるロボットSierの重要性が高まっている。また、ロボットを活用するユーザー側のロボットリテラシーも求められている。
- ・ 一方、足元では、Sier業界のエンジニアや、中小企業におけるロボットを扱える人材といった「ロボット専門人材」が不足。
- ・ 2025年度に開催するWRSを、人材育成の好機と捉え、継続的に、ロボット人材の育成に取り組んでいくべき。

開発・導入・活用を担う「ロボット専門人材」の育成の観点を始め、
ロボットの活用を更に拡大させるために必要な方策について、
幅広くご意見をいただきたい。